

第39回全日本教職員連盟
教育研究全国大会（栃木大会）資料

第6分科会 特別支援教育

困り感をもつ子供への指導及び支援

～不安を勇気に変えるために～



写真；山口県熊毛郡田布施町（城南小学校区）右下奥が城南小学校

山口県教職員連合会

山口県田布施町立城南小学校

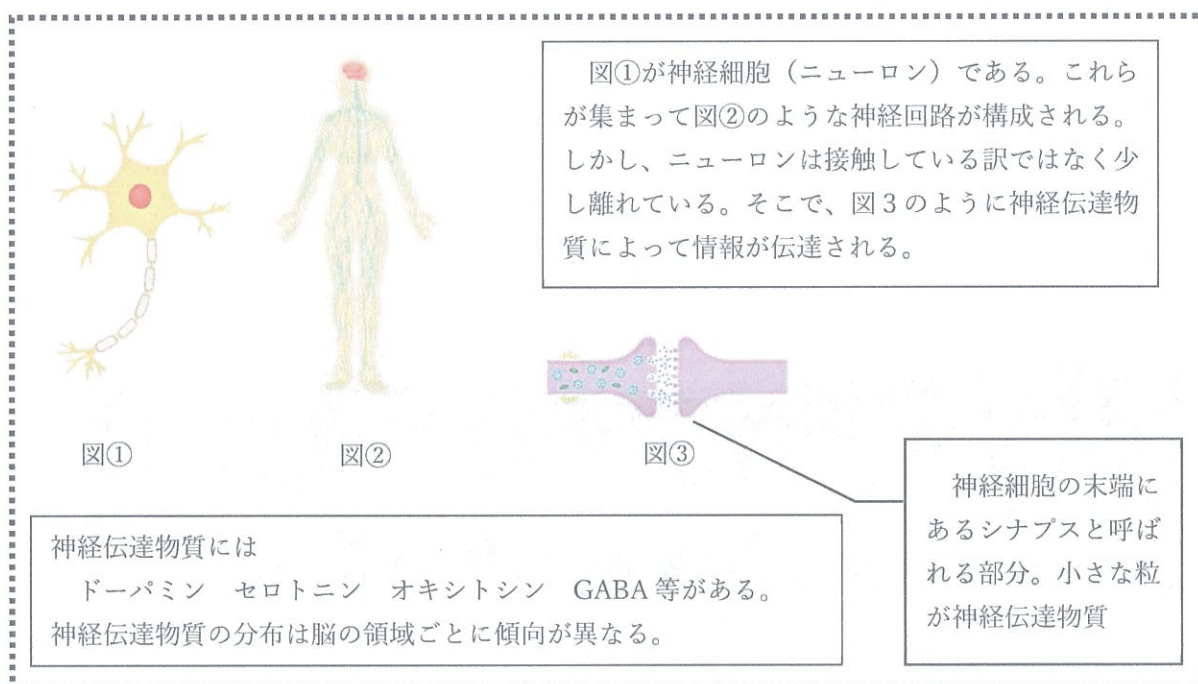
教諭 齋藤 俊二

(1) 発達障害等について



発達障害については、上図のような位置づけとなる。

○「神経」とは



「発達障害」においては、神経の機能の何処かが、何らかの理由により活動が阻害されていたり、逆に過活動になっていたり、各機能のネットワークのバランスが特徴的であったりすることで引き起こされる障害と考えられる。神経伝達物質が関与している場合もあるとされる。

① 自閉スペクトラム症（ASD）について（参考文献⑥参照）



【症状】

- ・ 共同注意が苦手
- ・ 自分以外、あるいは自分が慣れたもの以外は受け入れにくい。
- ・ 非言語的コミュニケーション的なものへの苦手さ
- ・ 感覚の過敏・鈍磨

起こりうる傾向【具体的に】
 すれ違ってても挨拶しない。
 こちらが困っていても助けない。
 協力しない。

【関与が深いとされる脳領域】
 ※参考文献①参照
 脳のある回路の結合の仕方に特徴的なものがある。その一部には右下前頭回や上側頭溝等、社会機能に関与するものもあった。

② 学習障害（LD）について（参考文献⑨参照）



【症状】

- ・ 知的障害は伴わず、文字等の認知的な面で障害がある。
- ・ 文字が逆さまに見える。二重に見える。かすんで見える。
- ・ バラバラに見える。ノートの罫線がぐにゃぐにゃに動いて見える。
- ・ 「い」と「こ」、「あ」と「め」等が見分けられない。

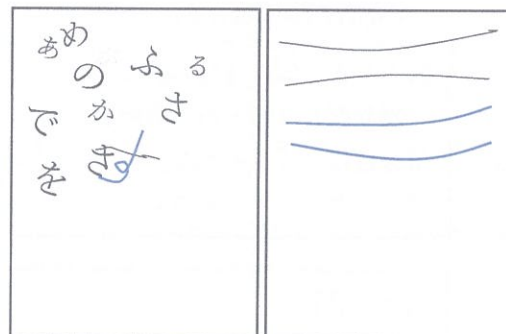
起こりうる傾向【具体的に】
 勝手読みをする。飛ばし読みをする。
 逐次読みをする。字形が整わない。
 どこを読んでいるのか分からなくなる。

【関与が深いとされる脳領域】
 ※参考文献②参照
 読字障害では視覚単語形態領域、計算障害では両側頭頂間溝の関与が深いとされている。

(例) 字の大きさや形を整えて書き写しましょう。

(例) はっきりとすらすらと読みましょう。

いいこいめぬああいこいこいこいこいめ
 ねぬぬぬめねあめめあいあこいいこいめ
 ねぬめなにこねわこいねめぬぬねいこ
 こねねぬぬぬぬめぬぬめあいここあい



③ 注意欠陥多動性症候群（ADHD）について

【症状】

- ・ 不注意が目立ったり、多動、衝動性があったりする。

起こりうる傾向【具体的には】

忘れ物をする。
整理整頓ができない。
授業中、離席をする。
気になるものがあると外に飛び出る。



【関与が深いとされる脳領域】

参考文献③参照

神経伝達物質ドーパミンの不足により前頭葉の機能が低下していることが考えられる。

④ 感覚統合による困難さについて

【症状】

- ・ 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、固有覚、前庭覚等に
- ・ 困難さがある。(過敏、鈍麻)

起こりうる傾向【具体的には】

上靴・靴下が履けない。
人とぶつかりやすい。(ぶつかっても何がいけないのか分からない。)
食べのの好き嫌いがある。
姿勢が崩れる。(椅子から崩れ落ちても気づかないことがある。)



【関与が深いとされる脳領域】

参考文献④参照

感覚刺激（入力）⇒脳での感覚処理 ⇒行動（出力）までの処理における問題と考えられる。

⑤ 吃音について

【症状】

- ・ 音節・語の「繰り返し」「音韻の引き延ばし」「ブロック」等が発話の際に起こる。

起こりうる傾向【具体的には】

繰り返し「あ・あ・あの」
引き延ばし「こーれを」
ブロック「・・・あの」



【関与が深いとされる脳領域】

参考文献⑤参照

聴覚野に異常が見られる。マスキングノイズなどを聴かせながら話すと、吃音が軽減するといわれている。

【対応策】

発声しやすい音があることもあるのでそれを見つけ出す。わざと「はじめの音をそお〜と出す。」等、子供に合った発声のパターンを見つける。子供と指導者の信頼関係が前提。

(2) 愛着障害について (参考文献⑥参照)

① 原因

子供を育てたいと思っても、それをかなえられない社会情勢、親が安心して子供主体で子育てに関わるができないことから、結果的に虐待等により子供の脳機能に障害（詳細は次項で説明）が起こる。

② 症状

2文法的思考、天邪鬼（試し行動）、こだわり、落ち着きのなさ、ストレス耐性の弱さ、癩癩、見捨てられ不安、人を信用する。甘えろといった学習ができていない。褒めても叱っても響かない。（幼い頃に正しい返報性が身につかなかったせい）

ADHD、ASD と見分けがつかない場合もある。しかし、愛着障害の場合は環境が変わると症状が落ち着くことがある。逆に ADHD であれば成長とともに落ち着いてくることが多いが、愛着障害の場合はそれが無いことが多い。医療的な面で言うと似たような症状でもアプローチの仕方は違うので見極めないと治療の効果に影響が出ることもある。

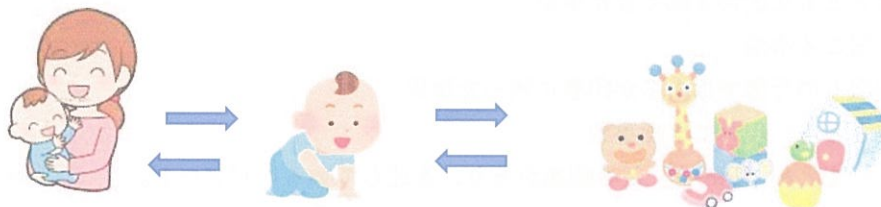
③ 愛着が形成される仕組み

幼少期からの特定の養育者からの以下の関わりが大切とされる。

- ・ スキンシップ
- ・ 声かけ

☆「安全基地」という考え方

子供は初めのうち、**特定**の養育者から排他的とも言えるほど離れようとしなない。少しずつ「**探査行動**」をとるようになり、怖くなれば養育者（**安全基地**）の基に戻る。成長するうちに周囲の様々なものが安全であることや危険であってもその対処方法が分かってくうちに、養育者からの距離や離れている時間が多くなっても平気になる。何故「探査行動」ができるか、それは養育者が守ってくれるという**安心感**、戻る場所があるという**安心感**があるため。自立して養育者の基に離れていくときには、自分の心の中に「安全基地」ができている。それが自立である。



④ エピソード

- 教室後ろのロッカーの上に登って歩く。
- 授業中、立ち歩いて友達の学習を妨げてしまう。
- 友達につばを吐きかける。
- 授業中、教室にいないことがしばしばある。図書室に逃げている。
- △ テストを破り捨てる。理由；100点とることはできそうにないから。本人に「70点でもいいんじゃないの。」と話しかけると「それではだめなんです。」と明言する。(2文法的思考)
- △ 給食で極端に苦手なものがある。ほとんど食べない。
- △ 運動会の練習できちんと並ぶことができない。全校朝会で並ぶことなども苦手。
- △ 誰かが来るまで大声を出し続ける。
- △ 授業中はよく寝る。タブレットなどを操作する授業では寝ることは少ない。
- 音楽会に向けてリコーダーの練習をするのだが、うまくできないと大声を出す。本番の音楽会に向けてステージへの出入り等、集団で行動することがうまくできるかどうか心配であったが、本番ではとてもよく頑張った。
- 社会見学でのバス内でのこと、該当児が「あと10分で着くね。」と自慢気に話をしていると、何処かからか他の子が「あと20分で着くね。」と話しているのが耳に入り、「いいや違うあと10分だ！」と言い返し、険悪なムードになる。その他の子は別に該当児に張り合うつもりは全くなかった。
- 社会見学でのバス内でのこと、後ろの子が当該児の座っている椅子の背もたれについていた「持ち手」を持っていた。そのことが気になり、その後ろの子に「持つな。」と言う。後ろの子は「これは持ち手だから別に持ってもいい。」と反論。険悪なムードになる(※1)。
- 水泳の授業の前日、水着を忘れて先生に叱られるという感情がわき起こり、落ち着かない。
- 集合写真を撮る際、どうしても普通の姿勢になれない。
- 運動会で帽子をかぶらない(※2)。
- 社会見学の新聞を書くのが苦手、話をする際は言葉の使い方など、相応学年以上のものを感じるのだが書くと言うことになると能力が発揮できない。得意なこと不得意なことの落差が激しい。
- 体育の授業に行くときには、必ずお茶を飲み、トイレに行ってから行く習慣が身についていて、時間にゆとりがあればそれでもよいのだが、たとえ時間にゆとりがなくても必ずそれをする。
- 絵の具を洗うとそのまま水遊びになる。同様に粘土細工なども好きである。手の感覚を堪能したいようにも見える。
- 板書が多すぎて書くことができないとやる気をなくす。(2文法的思考)
- 授業中はサバイバルの本をよく読む。
- ◎ 他の子を褒めると「僕のこと馬鹿にして・・・」と嘆く(※3)。

【各記号について】

- … 成長とともに無くなった事象
- △ … 成長とともに改善されてきた事象
- … よく起こる事象
- … 一度限りの行動ではあるが印象に残った事象
- ◎ … 成長とともに現れてきた事象
- ※ … 「(4)まとめ(P.8~)」との関連があり、後述しているエピソード。

(3) 困難さの根底にあるもの

不安

叱責、いじめ、からかい、仲間はずれ
= 攻撃

ASD の起こりうる傾向【具体的には】

- ・ すれ違ってても挨拶しない。
- ・ こちらが困っても助けない。
- ・ 協力しない。

LD の起こりうる傾向【具体的に】

- ・ 勝手に読みをする。
- ・ 飛ばし読みをする。
- ・ 逐次読みをする。字形が整わない。
- ・ どこを読んでいるのか分からなくなる。

ADHD の起こりうる傾向【具体的には】

- ・ 忘れ物をする。
- ・ 整理整頓ができない。
- ・ 授業中、離席をする。
- ・ 気になるものがあると外に飛び出る。

感覚統合の困難さの起こりうる傾向【具体的には】

- ・ 上靴・靴下が履けない。
- ・ 人とぶつかりやすい。(ぶつかっても何がいけないのか分からない。)
- ・ 食べものの好き嫌いがある。
- ・ 姿勢が崩れる。(椅子から崩れ落ちてても気づかないことがある。)

吃音の起こりうる傾向【具体的には】

- ・ 繰り返し「あ・あ・あの」
- ・ 引き延ばし「こーれを」
- ・ ブロック「・・・あの」

愛着障害のエピソード

性格・人間性の
問題と同一視
されやすい。

○不安になると（参考文献⑧参照）

ヒトは不安になると「扁桃体」が反応する。扁桃体は脳辺縁系に位置して極めて原始的な部分と言われていて人間のもつ動物としての本能的な面を構成している。中でも「扁桃体」は生命を守るための行動をとらせようとする。敵（信頼できない対象）の攻撃に対する「闘争」＝「暴力」・「暴言」もしくは「逃走」＝「引きこもり」「拒絶」の行動の原因となる。



また、扁桃体は記憶とも密接に連動していて、過去の体験と照らし合わせながら自分を守るための行動をとる。主な体の反応として心拍数が上がる。呼吸が乱れる。また、障害の特性によっては扁桃体の活動を亢進させやすくなることもある。以上のことから「(1) 発達障害」で述べてきた「症状」と「不安」は異なる問題として捉えることが妥当であろう。

なお、愛着障害では虐待により扁桃体が過活動になっていることが考えられる。扁桃体は興奮し続けることで「キンドリング現象」とよばれるものを起こすことでより過敏になり、ストレス耐性が弱くなっていく。

□不安とは

医学的に「不安」とは対象のはっきりしない恐怖と定義されている。本人自身も何が不安の原因か分からなくなっている場合が多く、解決を困難にさせていると考えることができる。個別の事案のみに対応しただけでは解決は図れない場合が多い。複数の人から継続的にいじめやからかいを受けると「誰」という個人に対する恐怖を超えて「周囲の人間」「学校全体」「世の中」というくくりで、つまり対象がはっきりしない状態で防御態勢に入ろうとすることが想像できる。加えて、先にも述べたが扁桃体は記憶とも連動していることが、例えば学校で嫌な思いを継続的に受けていたとすれば、「校舎を見ただけでドキドキする。」「チャイムの音を聞くと不快になる。」「友達の何気ない発言に腹を立てる。」等の症状をより起こりやすくと考えられる。

扁桃体が関与しているとされる障害に「強迫症」がある。例えば、手を洗っても雑菌が残っている気がする。実際には「きれい」な状態になっているので、「汚れている」対象は存在しないのに、きれいにしようと何度でも手洗いをすることになる。「パニック症」でも扁桃体の関与が考えられる。防護本能としての「心拍数が上がる。」等がエスカレートしている状態が考えられる。さらにパニック症には「予期不安」というものがあるが、これは過度に引き起こされた防御本能自体が辛い経験として記憶に残っているのでそれに反応していることが考えられる。「PTSD」や「場面緘黙症」でも、扁桃体の活動が関与していると考えられている。

何より・・・

不安を感じると当然「自己肯定感」は低下する。他人や組織・自分を信頼できなくなる。生きることが楽しさやうれしさよりも生きづらさや苦痛に満ちたものになる。

(4) まとめ

「不安」から「安心」、「安心」から「勇気」へと子供の意識をどのように変えていくかについて、これまでの実践を踏まえながら説明する。

信頼関係（共感的理解）

本人のもつ価値観を共有する。例えば、YouTube が好きであればその話についてある程度知識を持っておくといよいのではと考える。そうすることで「敵でない人間もいるんだ。」ということ 記憶に上書きする。同じ価値観を持つ人間がいること、自分が何かをすればプラスの反応が返ってくるのは心強い。愛着障害のエピソード※3 (P.5 参照) のように「僕のこと馬鹿にして」と言ったときには、「なるほど、馬鹿にされていると感じたんだね。」「きっといろいろとあったんだね。」「でも、馬鹿にはしてないから安心してください。」と伝えると落ち着くことができた。

【海外での事例 参考文献⑦参照】

ASD の子供が丸いものを回すことにこだわっていた。そこで養育者はその子と同じく丸いものを回すことに夢中になって一緒にやった。すると、ある日、その子が養育者の方をチラチラ見るようになった。そのことは、その子が他の人の存在を意識し始めた証である。そのうちに、養育者の目を向ける様々なものに目を向けるようになった。さらに、その子が笑うと養育者も笑うということを繰り返すうちに、その子の中に「自分の行動が他人の行動を引き起こしている。」つまり、自分の行動と相手の反応には関連性があるということに気づいた。

褒めるあるいは認める

児童がしているよいところを見いだし、褒める、ねぎらう、認める等の声かけをする。そうすることで「僕がしていることは間違っていないかったんだ。」ということ 記憶に上書きする。

上記下線太字部（2点）において、「記憶に上書きする。」と述べているが、これは大脳皮質の「内側前頭前野」が恐怖の消去に関与していて、「今までは、嫌なことがあった場面でも今回は起こらなかった。」という経験を繰り返すことで不安が消去されるという事例からも意義のあることだと考える。ちなみに、「扁桃体」は恐怖の条件付け司っているので働きとしては逆の性質がある。（参考文献⑧参照）

集団指導で心がけてきたこと

基本的には、どの子にも同じような対応をしなければ不満が生まれるので、できるだけ同じような対応はしたいのだが、やはり個別の対応も必要なので、「不満」の生じないような学級経営を心がける。そのためには、どの子も「褒める」ことが大切。例えばある子はノートを全くとらない、ある子はノートをきちんととっている場合には、「すごく丁寧にノートとれてるね。力がつくよ。」ある子が登板の仕事をしなくて、別の子がしていた場合も「ありがとう。助かるよ。」その積み重ねをすることで「支持的なムード」が学級にできあがる。叱らなければならないときはどの子に対しても、他の児童が見ていないところで叱る。人前で叱ると「この子は叱られて当然の駄目な子だ。」という意識が生まれるので望ましくない。

環境調整

エピソード※1 (P.5 参照) のように、板書を書くことが難しい場合は、板書を教師が薄くノートに書いておき、児童に「薄く書いておきました。これを時間があるときになぞってくださいね。なぞることができなくても、書いてあるので大丈夫です。」と伝えて安心感をもたせる。板書の量を減らすことも大切。

【5 2歳で大学進学を果たした LD の成人当事者談 参考文献⑨参照】

「将来困るよ。」と言う大人に言いたい。子供たちの将来はこんなに柔軟で、科学の進歩は沢山の可能性を広げてくれている。「その子の学びやすさを」を支えて明るい未来を開いてほしい。

叱責について (参考文献⑩参照)

このような場合、叱責という行為は傷口に塩を塗るようなものだと考える。しかし、それをせざるを得ない場合もあるので、その時は「厳しく、短く。」を意識して行う。また、言い方として「こんなことをするとあなた自身が辛い思いをするよ。先生も辛い。」という内容を込めることが肝要。時には同じ土俵に立って、あえて、「情熱的」に叱ることも共感していることを示す上で、よいかもしれない。

非言語的コミュニケーションを大切に

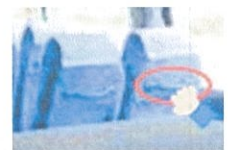
たとえ丁寧な言葉でも所謂「嫌味」のにじみ出る言い方になったり、見下したような言い方、とげとげしい言い方になったりすると、不安の大きい児童はそれを敏感に感じ取ると思われる。そこで、指導する際の口調、声の大きさや、仕草などを努めて穏やかにしてきた。相手を尊重する気持ちを持つことで自ずと態度となって現れると考える。

愛着障害のエピソード※2 (P.5 参照) の「運動会で帽子をかぶらない。」事案について、この児童は感覚的なものもあり帽子をかぶるのが困難なのかもしれないと感じつつも、そばに行って「帽子をかぶることはできますか。」と穏やかな口調で提案したら、運動会の終わりまでかぶり続けた。

事実を正しく把握する

愛着障害のエピソード※1 (P.5 参照) の事例のような分かりにくい事案も多々生じる。この事案の場合、トラブルの原因を話すことができたので、解決の方法が見いだせたのだが、訴えることなく、乱暴な行動に出ることも多い。表現力の拙さが原因となる場合もあるが、日頃から「指導者に聞いてもらえる。」という安心感をもたせておくことは大切だと考える。また、感覚の面でも敏感ではないかという予測もあり、些細な問題とも思われるが、共感的な理解を心がけた。

このバスの中でのトラブルでは、該当児童には「後ろの子が椅子の背もたれにある持ち手を持つ感覚が伝わってくるので嫌なんですね。後ろの子に話をしてみます。」と伝え、後ろの子には「持ち手を持って構わないけれど、前の子が背もたれが動くのが気になるそうです。だからあまり動かさないように気をつけながら持つことはできますか。」と提案した。すると、後ろの子は「持ち手」を持つのをやめて、該当児童は「ありがとうございます。」と言った。



場面緘黙症の子への支援

- ゲーム等をして楽しく過ごす。基本、指導者は隙だらけ（安心させる）。わざと失敗したふりをして「ツッコミ」を入れたくなるような雰囲気を作る。小さな声で「ツッコミ」を入れてくれたので「そっかー」とさりげなく返した。体を動かす遊びもたくさんする。エアホッケーやの当てなど盛り上がり思わず「きゃっ」とかの声が出るように。家以外の場所でも「声が出せた。」という事実を積み上げる。
- 保護者と当該児二人だけの時間を意図的に作る。（「おもちゃを取りに行くね。」等と言って、わざとのんびり帰ってくる。戻ってくるのが分かるように足音を立てて戻る。）これについても上記と同様、家以外の場所でも「声が出せた。」という事実を積み上げることになる。兄弟なども一緒に混じってゲームをするとよい場合もある。
- 「〇〇さんの教室見てみたいな。」などと言って、在籍校の担任の協力を得て、誰もいない教室等で保護者と二人きりのシチュエーションを作り「声が出た。」という事実を積み重ねることも考えられる。

勇気を持たせるために

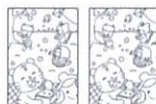
○ コグトレ（一般社団法人日本 COG-TR 学会 Web 参照：右 QR コード）の実施

本人が得意としている内容を繰り返し行ったり、苦手なことにチャレンジしたりすることで、技能的な面の向上も図りながら、何より達成感を感じさせることで、「他のいろいろなことも僕はできるかもしれない。」という勇気をもたせることを目的に行う。失敗をしても大丈夫という安心感が前提。このことについては前項「愛着障害」で述べた「安全基地」という考え方にも近い。実施する際には児童の様子を観察しておき、どのようなことが得意で、苦手なことは何か、児童の変容等も把握しておきたい。（難易度を変えてみたり、別のものに変えてみたりする等、今後の支援における判断材料にもなる。）



【コグトレの例】

「間違い探し」「点結び」「線なぞり」「塗り絵」



「綿棒積み、ペットボトル積み」「キャッチボール片手取り、両手取り」



「新聞ビリビリチャレンジ」「コグトレ棒【新聞を棒状に丸める】キャッチ」



「最初とポン」・・・決められた語を言ったときだけ手を叩かせ、初めにいった言葉を答える。

例；「最初の言葉を覚えて、動物の名前を言ったときだけ手を叩いてね。」時計、いす、たぬき・・・

「最初の言葉は何ですか？」→「時計」



【 観察記録 】

10 / 4 新聞ビリビリチャレンジ、^②縦方向はスムーズに切れるが横方向は難しそうだったものの、^①諦めずにチャレンジをがんばった。その後間違い探しを行った。^③考える姿はとてもよい。

10 / 13 ^④コグトレ棒15回チャレンジ成功。今日はよく話をした。^④お寿司の話。映画の話、ゲームの話などいろいろ、^⑥1日9時間くらいゲームをすると話してくれた。

11 / 25 ペットボトルキャップでピラミッド積み、三段・五段はすぐにクリア。十段に挑戦しようと言うと「えーできるかなあ。」と言いつつやり始める。あと一つというところで崩れる。「もう一回やってみたら。」と勧めるがやる気は感じられなかったので、^⑦集中力を高めるプリントをしようとして提案「そんなプリントはできません。」と言うが「一緒に考えよう。」と言って一つ一つ確認しながら取り組む。やり方が分かると集中して取り組めた。

12 / 2 ^⑧コグトレ棒キャッチ目標20回。19回まで達成。

1 / 10 来客のため時間が短くなる。時間が短くなったことを謝ると^⑨「いいですよ。」と返してくれた。

2 / 10 「最初とぼん」をした。いくつかのものの名前を指導者が言ううちに動物の前を言ったときに「ボン」と手を叩くのがルールと説明。最初の言葉を覚えながら手を叩くことは「2つのことを同時にするのはできません。」と難色を示しつつも、^⑩読むスピードをゆっくりにして動物の名前を強調して読むことでできた。^⑪綿棒が積まれているものが目の前にあったので、集中が続かない様子だった。次からはまわりを片付けてから実施したい。

3 / 2 間違い探しをした。見つける力は教師よりも高い。^⑫能力の可能性大いにあり。

3 / 9 ^⑬目と手の協調運動が不安定なのできちんと^⑬ボールをつかんでキャッチできないが、徐々にできつつある。連続で20回キャッチできた。

(解説)

- ①、⑫ … 子供の優れている面
- ②、③、⑨ … 子供のよい心がけが見られた面
- ③、⑧、⑭ … コグトレ棒の回数が増えたこととコグトレ棒からボールに変わったこと (変容)
- ④ … 子供の興味について (今後のフリートークの参考にもなる。)
- ⑤ … 子供の家での生活の様子
- ⑥、⑩ … 苦手なものに取り組む際の支援の仕方
- ⑪ … 指導上留意すること
- ⑬ … 子供に経験させていきたいこと

子供が具体的に「こんな支援をすることでこのような面が伸びてきた。」「こんなよい面が見られた。」ということ具体的に記録(メモ書き程度)することで、今後の支援の計画に役立てたり、保護者に伝えたりすることで、保護者も子どもの頑張りを理解し、信頼関係にもつながる。

支援を継続していくために

これまで示してきた支援を担任一人で行うことは非常に難しく疲弊する。担任ができることは、まずは「安心感」をもたせることと考えるが、十分な支援のためには協力体制が必要となってくる。そのためには、保護者の理解が必要であり、信頼関係を構築することが必要になってくる。そのために、毎日連絡帳で子供の様子を伝えたり、何かあればいつでも相談に乗るといった姿勢を見せたりすることが大切になってくる。保護者との信頼関係を構築した後に「通級」を提案してみる等、児童の実態に応じて適切な支援を講じる。

また「発達検査」等を通して、児童の実態の参考とすることで、より効果的な指導法を見いだしていくことを提案していくことも考えられる。学校が変わっても指導者が変わっても、適切な支援を継続していくために「個別の教育支援計画」を活用していくことが有意義となる。また、保護者に合理的配慮について周知するために下のように在籍校では「学校の約束」に留意事項として記載をした。

城南小学校児童のやくそく		
田布施町立城南小学校 令和4年度用		
1 服装等	男 子	女 子
帽子	白の野球帽子（前に校章）	白の帽子（左側に校章）
上着（冬）	黒の学生服（折り襟） 左の胸に名札を縫い付ける。又は安全ピンタイプの名札をつける。	紺のスモック（白の丸襟）
ズボン・スカート	黒の半ズボン	紺のひだ付きスカート
シャツ・ブラウス	半袖紺白シャツ 白半袖シャツ 長袖白カッターシャツ	半袖白ブラウス（丸襟） 白半袖ブラウス 長袖白ブラウス（丸襟）
靴	白または黒か紺のソックス（着用した場合は必ず上履さを履く。スニーカーソックスは不可。）	
手袋・マフラー	冬に使用可。ネックウォーマーは可。耳当ては原則として不可。	
履 鞋	上履き	バレージューズ
	下履き	白くつ
体 操 服	シャツ	半袖丸首白シャツ（首・袖口に紺のふちどり） 冬は長袖体操シャツも可 左胸に校章、その下に名前を付ける。
	ズボン	紺のハーフパンツ
	靴	赤白靴下
給食着	白の給食着、給食帽子、マスクを着用する。（メーカーは問わない。）	
傘・カッパ	黄色で先の丸い傘が望ましい。※カッパはビニール袋に入れて教室へ	
髪型	小学生らしい清潔感のある髪型（髪染めはしない。）	

※ 冬期は天候や体調に合わせてジャージ上下、ベスト、セーター着用可（華美でないもの）
 ※ 登下校中は制服上着を着用せずにジャージ上、ベスト、セーターを上着の代用としない。
 ※ 体育は体操服で行う。ただし、冬季（11月～3月）は防寒のために体操シャツの下にジャージを着てもよい。
 ※ 装飾品など必要のない物は身に付けない。
 ※ フラドセルの横に物を下げない。
 ※ ランドセルに防犯ブザーを着用する。（定期的に動作確認をする。）

2 時刻
 始業開始時刻...8時00分 総下校時刻...15時35分

3 登下校
 登校...登校車での集団登校
 登校が先頭、以下低学年から1列で副校長が最後尾に並び、
 集合時刻を守り、7時50分までに登校する。
 下校...毎日下校時刻が同じ学年でまとまり下校をする。曜日別の下校時刻は下記の通り

曜 日	一緒に帰る学年	下校時刻
月	1・2年生	14:45
	3～6年生	15:35
火	1年生	14:45
	2～6年生	15:35
水	1～3年生	14:45
	4～6年生	15:15
木	1～3年生	14:45
	4～6年生	15:35
金	1・2年生	14:45
	3～6年生	15:15

4 自転車使用
 1・2年生...家の庭や公園などの安全な場所（道路は必ず保護者同伴で乗る。）
 3年以上...自転車教室が終了した後、ヘルメットを着用し（ベルトをきちんと締める。）校区内で乗る。
 以下の約束を守って乗る。
 ・ 田布施川沿いの県道（23号線）を乗ったり横切ったりしない。
 ・ 城布石岬山間の横断歩道・多道橋下横断歩道・酒田下の横断歩道のみは、押して横断してもよい。
 ・ 石の口の横道も乗ったり横切ったりしない。
 ・ 大田、西山の農道を横断する時は、横断歩道を押してわたる。
 ・ 交差の決まりを守り、ヘルメットを着用の上、整備された自転車に乗る。
 ・ 夜間（暗くなってから）は乗らない。
 ・ 校区外では、保護者同伴とする。
 ・ 5・6年生に限り、保護者の同意を得て、郷土館・図書館へ学習に行くのはよい。5年生は、年度初めに保護費として分庫金を確認して、連休明けごろからとする。経路は、中学校の通学路に準ずる。
 ・ 自転車置き場は、体育庫横とし、整頓して置く。
 ・ 自転車置き場～正門～JJA前の横断歩道の間は、自転車に乗らずに押して移動する。
 ・ 長期休業中の水泳クラブの際は、登下校に自転車を使用してもよい。

5 外出
 家を出る時は、だれと、どこで、なにをして、いつ帰るかを知らせる。
 ・ 子どもだけでの校区外・夜間外出はしない。

6 持ち物
 ・ 必ず記名しておく。
 ・ 不要な物や玩具のような学習用品は、学校に持ってこない。
 ・ ジャージ・ハンカチは、学校に持ってこない。

7 その他
 ・ 子どもだけで田布施川、ため池での遊びや釣りをしてない。
 ・ 長期休業中には、別に「休みの生活」を配布するので、それを守る。
 ・ 帰宅時刻は3月の休日から9月末まで6時、10月から3月の修了式までは5時とする。
 ・ 学校前交差点横断歩道の使用について
 ※ 登校・下校時以外は、十分に注意して横断してもよい。

8 留意事項
 上記等、城南小学校のきまりにおいては、児童の実態に応じて配慮する（合理的配慮）。

このたびの提案では、「不安を勇気に変えるために」ということを客観的に説明するために脳の機能などにも触れながら提案をしてきた。脳の機能には回復力（ある場所が損傷しても他がカバーする）があることが研究から分かっている。今後もそのことに希望をもち、適切な指導を心がけていきたい。

【参考文献】

- ① 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (HP) ニュース・プレスリリース参照
https://www.amed.go.jp/news/release_20160414.html
株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 国立大学法人東京大学 学校法人昭和大学 共同研究
自閉症を脳回路から見分ける先端人工知能技術を開発—人種を超えたバイオマーカー—自閉症の実体：脳回路の変位—
- ② J-STAGE【「科学技術情報発信・流通総合システム」
国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が運営する電子ジャーナルプラットフォーム】(HP)
LDの脳機能 関 あゆみ
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscap/58/2/58_217/_article/-char/ja/
- ③ 松浦こどもメンタルクリニック「香川県綾歌郡宇多津町」(HP)
<https://www.matsuura-kodomo-mental.jp/>
- ④ パシフィックサプライ (HP)
感覚統合 Update 第1回：感覚統合の障害 感覚の問題とは？
京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 加藤寿宏
<https://www.p-supply.co.jp/topics/?act=detail&type=1&id=711>
- ⑤ 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 (HP)
<http://www.rehab.go.jp/ri/kankaku/kituon/research.html>
- ⑥ 愛着障害の克服 「愛着アプローチ」で、人は変わる (光文社新書)
「愛着障害」全4巻中の3巻 | 岡田 尊司 | 2016/11/17
- ⑦ 自閉スペクトラム症 「発達障害」最新の理解と治療革命 (幻冬舎新書)
岡田 尊司 (著)
- ⑧ 虐待が脳を変える—脳科学者からのメッセージ - 2018/1/15
友田 明美 (著), 藤澤 玲子 (著)
- ⑨ そだちの科学 2021年10月号 37号
学習の遅れを支える 日本評論社
- ⑩ 子どもの発達障害 子育てで大切なこと、やってはいけないこと (SB新書)
本田秀夫 (著)